

児玉 康比古 議員



一問一答方式

- ①高齢者の健康づくり
- ②今年度作成の洪水ハザードマップ

高齢者の健康づくりについて

問 市長は、公約の1つに健康寿命を延ばす健康づくりの推進を掲げている。私も、高齢者が元気に健康で過ごせる健康づくりを市内全域で積極的に推進すべきと思っているが、今後、どのようにして介護予防サークルを市内各地域の中で浸透させ、普及・拡大を図っていくのか。

答 高齢者の健康づくりについては、各部署の連携という点では

課題を感じていたので、いま一度、高齢者の皆様の視点に立って、事業のあり方を検討し、庁内が一丸となって効果的、魅力的な健康づくり事業に取り組むよう連携の強化を指示したところです。市民の皆様がともに支え合い、生きがいをもって安心して健やかに暮らせるまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。

介護予防サークルは、地域の高齢者がグループをつくり、自分たちで計画的、継続的に介護予防の体操を行うサークル活動となります。高齢者なら誰でもどこでも気軽に組みめる活動として自治会や老人会、婦人会の皆様にも協力を仰ぎながら、広く参加を呼びかけ、高齢者の介護予防につなげていきたいと考えています。

また、高齢者の交流の場となっている、ふれあい・いきいきサロンを介護予防サークルとすることも可能ですので、まずは、このサロンを中心に市内各所での普及・拡大に努めていきたいと考えています。

今年度作成の洪水ハザードマップについて

問 平成28年6月の水防法改正に伴う見直しで、肱川本流と支流の

想定総雨量は48時間で340ミリから811ミリに増加し、浸水被害面積は984ヘクタールから1,566ヘクタールと広がり、東大洲地区では水深10メートルから20メートルに達すると報道された。

平成28年3月に作成されたハザードマップは総雨量340ミリの想定で作成されており、またおおむね100年に一度の頻度で起こる大雨と明記されていた。前回のハザードマップと比べ、市民に分かりやすく改善した事項について伺います。

答 今回作成するハザードマップは、市民防災読本「統合型防災マップ」として、浸水想定区域図や土砂災害危険箇所図だけでなく、気象情報や避難情報、各種災害対策などの説明や津波避難想定、地震振動想定、原子力災害避難区域図についても掲載し、いざれ起こるかもしれない様々な災害に対し、事前に備え

てもらったことを目的に作成しています。

この防災読本をもとに、家庭や地域で防災について話し合う機会を設け、自主防災組織などの活動に生かすなど、自助・共助を推進し、防災力を向上していただきたいと考えています。

問 今年度末には、鹿野川ダム改造事業が完了する。完成後、大規模な洪水が予想される際には、トンネル洪水吐きを活用することにより、早めに予備放流を開始することで総貯水容量を確保できるようにするが、今回のハザードマップは、トンネル洪水吐きなどのダム操作を考慮したものになっているのか。

答 今回作成するハザードマップの基礎となる国が告示した洪水浸水想定区域図では、告示時点である平成28年5月末時点における肱川の河道及び洪水調整施設の調整状況を勘案してシミュレーションを実施しているのと伺っています。そのため、現況による洪水想定区域をお示しすることになります。